

様なら直に二階へ御参内申すべし。と云ふやうに見へて、時にお前は此土
 の婆とて女中は片八の二階の小籠屋の者か但しは他から来たのか。一イ
 庫裏に案内致して、女旦那御親類の如くは、此土の者で此家に小供の時
 は、因うう始めて来た旦那に付からず貰はれて来たのかと云ふ事を、こ
 當地に御参のあらう筈はない、先れた不器用でございますから、まあ店
 邊迄に執持、貰はう。女、ハイ宜しうの小供の御参り、に家の執持ばかり致し
 ます。且、ア兎も角も一杯飲んで居ります。成程天にしましては、器量が
 一つ弱氣を附けやう、夫れから西へ野村作蔵は来るかへ。と云ふ。伴
 前に孫を爲やうから、まあ早く西へ野村作蔵は来るかへ。と云ふ。伴

金剛時計をバツチと音で着せしめて首に
 けたキイ君は〇〇〇の會計係りで
 四級に私は内地の部長と事務官な
 者の著に思はれた百姓さんを憐れ
 にはゐられたかつた

俳句

京城新春句抄

野崎小蟹撰

〇明太の子
 歳時記にこそなけれ 鮮土にすけ
 の俳人たるものゆるが せにすけ
 とやと諸氏に切望し ぬ
 太の子と温気の松の内り 鳥
 池に墨木を試筆したるど 目
 垂れけ明太の子快言す 池

俳句

男言一行は 往八に別れて若王子
 立歸りたる 東川は 甲辰柳町三樹寺
 喜平次へ宿を定めた 翌日午後三時
 し前と思ふ頃までは 何處へも行かづ
 宿屋に居りたまたが 絶て主人の喜平
 次を呼んで 庄主人 庄へい
 若王子の新町まで行て来ようと思ふ
 がな 庄へい 庄前の家の奥座を一段
 借受けた 庄 貴りたる 庄草履が宜
 しいな 庄へい 庄前に雪駄の草履が
 のがございます 且ね様は御足が大大
 〇舞在しやいやすから 止 雪駄な
 向は宜しい 御し何なら購めても宜
 しく 庄とりやわだんでございます

[illegible]

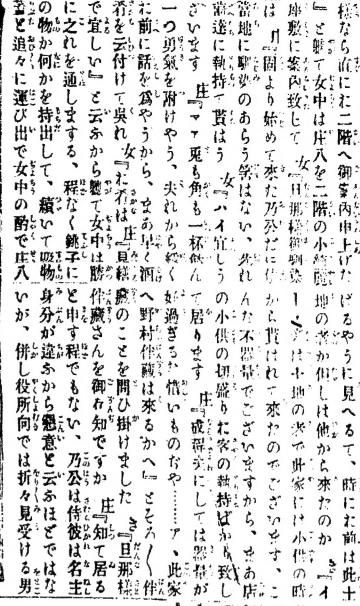
労働者に月二弗の増給を爲し決
新内閣政綱宣言書を起草して
未嘗有の榮冠を來せる佛蘭西盟
其他諸國との交情に對し過々
特に海陸軍維持の要を益々
持と昨年の成績極めて優良に
十八萬餘圓に達したりといへ
せぬ、その近衛様や齋藤様や永山様

西班牙内閣辭職に決したりとまででは需用に迫られて、一夜の愉快な國皇帝名代「ナポレオン」を取ることが出来たであつたが漸々少しく身体に異變が出来たらからとてよく休むことにし、新聞大吏「アリス」を訪問した。晩當家の厄介に爲りに參つたのだ。

「なげんと俄國新内閣を歓迎すはいた様でございますか難有存じます。」

吉「一行は、廿八に別れて若王手へ
 大へ宿を定めた、ぬ川は、翌日朝初三時
 水へ宿を定めた、甲辰の翌日午後三時
 と思ふ明までは、何處へも行かづ
 に居りよすがは、總て主人の喜平
 座で」主人「主へイ、是れかな
 主人の新しい新町まで行て来やと思ふ
 主「い川の前家の蘆花を一日
 主「買つて来い」主「草履が宜
 主へイ手前共に出張に雪駄が宜
 ございませう、且那様は御足が太
 ざりやいませうから」主「雪駄な
 は宜しい、御し何なら購めても宜
 ざりやいむでございませう」

「さう、さう。木桶を御覧下さいました」として庄八は
 縁の端に掛けた荷物を取つて立出で、土間の裏方に
 新町の和泉屋と云ふ料理屋の置
 たるで見ると、門口は廣からねど奥行
 いには外にも、膳数が多いあらう
 と思はるゝ。客の地方邸筋料理……
 果腹と云ふ行燈が下つて居りませ
 う。馬車と軒下に這入る。女（おきく）
 まし。庄八が分解かだね。店の者へ
 「此節は霜枯れでございますか」
 若い。それ然うと誰か來て居りな
 せんか。若い。誰方にも見ねになり
 ゃぬ。那の近藤様や齋藤様や永山様



毒淋病
小兒科專任
院長 陸軍醫正 品井良治
大阪醫學士植利彦
電話二一六番

